

泉房穂の構想

【1】プロフィール

1963年8月19日生

兵庫県明石市生まれ、明石市育ち

1982年東京大学文科二類に入学。東大在学中は駒場寮の寮委員長を務めていた

1987年NHK入局。テレビ朝日移籍。

石井紘基民主党衆議院議員の秘書を経て司法試験に合格。

2003年第43回衆議院議員総選挙に民主党公認で兵庫県第2区から出馬、初当選。

2005年第44回衆議院議員総選挙に民主党公認で兵庫県第2区から出馬、落選。

2011年4月明石市長選挙に無所属で立候補、69票差の接戦の末初当選。

候補者名	年齢	所属党派	新旧別	得票数	得票率	推薦・支持
泉房穂	47	無所属	新	54,062票	50.03%	
宮野敏明	59	無所属	新	53,993票	49.97%	(推薦) 民主党・自民党

2015年4月明石市長選に再選。

候補者名	年齢	所属党派	新旧別	得票数	得票率	推薦・支持
泉房穂	51	無所属	現	51,000票	48.74%	
榎本和夫	58	無所属	新	30,494票	29.14%	(推薦) 自民党
増田幸美	53	無所属	新	23,143票	22.12%	

2019年2月明石市長を辞職。2019年3月明石市長選にて2人を圧勝で破り3回目の当選

候補者名	年齢	所属党派	新旧別	得票数	得票率	推薦・支持
泉房穂	55	無所属	前	80,795票	70.44%	
北口寛人	53	無所属	元	26,580票	23.17%	
新町美千代	71	日本共産党	新	7,321票	6.38%	

2022年10月市議会で不祥事に関する問責決議案が可決されたのち、次期市長選挙をはじめとする各選挙への立候補をせず、政治家を引退する意向を示した。

同年11月、翌年の第20回統一地方選挙に向けて政治団体「明石市民の会」を設立。

2023年4月の明石市長選挙にて泉の後継指名を受けた元市議の丸谷聡子が自民、公明の推薦を受けた元市議の林健太らにダブルスコア以上の票差で圧勝。同日執行の市議選においても泉が擁立した新人5人全員が当選。

泉は2023年7月の兵庫県三田市市長選挙、9月の岩手県知事選挙と東京都立川市市長選挙、10月の参院徳島・高知選挙区の補選と埼玉県所沢市市長選挙でいずれも非自民候補を応援し、当選に導いた。

【2】泉房穂の「原点」

貧しい漁村の生まれ、小卒の父親と中卒の母親、障害を持つ弟…明石市の元名物市長・泉房穂の「原点」
現代ビジネス 連載『政治はケンカだ！』第2回

<https://gendai.media/articles/-/118055?page=2>

泉 弟のこと以前に、まず家がものすごく貧乏だったんです。明石市の西部に位置する、播磨灘に面した二見町という貧しい漁村。その村のなかでも特に貧しい家庭に、私は生まれました。親父は小卒で漁師になってますし、母親は中卒。

一 国を挙げて障害者を差別する施策を推進

泉 当時は「優生保護法」という法律があり、国を挙げて障害者を差別する施策を推進していました。なかでも兵庫県は悲惨な状況でした。当時の兵庫県知事が自ら音頭を取って「不幸な子どもの生まれない運動」という政策を推し進めていたのです。障害者への不妊手術等の強制や、妊婦の出生前診断を奨励し、羊水検査で障害を持つ可能性が高いとわかったら、生ませないようにする運動でした。

うちの弟も、障害を持って生まれてきたので、両親はそのまま見殺しにするよう医者に言われました。「放置して死んでいくのを待て」と。

両親は、いったんは承諾してしまっただけですが、「やっぱりこの子を死なせることはできない」と思い直し、私が待つ自宅に弟を連れ帰ってきました。「障害が残ったとしても、自分たちで責任を持ちます」と突っぱねたんです。私は両親から「お前は将来、親が死んだら弟の世話をせえ。そのために二人分稼げ」と言われて育ちました。両親の言う通り、二人分稼がないと弟と生きていけないし、両親を楽させたいという思いも幼心に強かった。だからこそ、自分が勉強を頑張らないと、と思いました。

助けるどころか、障害を持って生まれてきた子どもとその家族に鞭打つような施策を、行政が公然と行う。私は幼いながらに「こんなやり方は絶対に間違っている」と強く思いました。

うちの弟は、小学校に入る前に立ち上がって、よちよち歩きではありますが、歩けるようになりました。家族みんなで「小学校入学に間に合った」と喜び合いました。ところが、当時の行政は障害を理由に、近くの小学校への弟の入学を認めなかった。「徒歩通学は大変だから、電車とバスで行ける遠くの学校(養護学校)に行け」と言うのです。

誓約書を出すことで弟の入学は認められましたが、私はその理不尽さに憤りました。だからこそ、たった一人でも「例外」を出してはならないと、強く思った。くさい言い方ですが、「冷たい社会を優しい社会に変えたい」と本気で思い、小学5年生の時には明石市長になりたいと考えるようになりました。

(参考)

AERA 泉房穂・明石市長が語った「お地藏さんになりたい」の真意 街づくりの原点に障害ある弟の存在
<https://dot.asahi.com/articles/-/6042?page=1>

【3】明石市の施策

■2022/06/07 第208回国会 内閣委員会 こども家庭庁設置法案 参考人意見陳述 泉房穂(明石市長)

「こども施策で人口増・経済好循環～決断すれば実現可能～」

(動画) https://www.youtube.com/watch?v=UGinHEF_Mbl

(資料) <https://izumi-fusaho.com/pdf/20220607sangiin.pdf>

- ・ 子どもを本気で応援すれば、人口減少の問題に歯止めもかけられますし、経済もよくなっていく。
- ・ 明石市独自の『5つの無料化』、すべて所得制限なし。なぜなら先に税金や保険料で国民の皆さんから預かっているという認識でありますので明石市はお金をとりません。
- ・ お金だけではなく『寄り添う』施策、この両方を行っているのが明石市の特徴。
 - ①養育費の立替払い ②親子の面会交流支援 ③無戸籍児支援 ④児童扶養手当の毎月支給
 - ⑤こども食堂全小学校区で開設 ⑥児童相談所の改革 ⑦おむつ定期便での見守り・相談
- ・ コロナ禍での支援策
 - ①大学の学費立替払(大学をやめかねない学生に代わって 100万円上限で 本人と親に代わって、大学にお金を振り込んだ。親は金がありません、子どももない。だったら行政が100万円までは持つ) ②高校進学への給付型奨学金 ③ひとり親家庭にさらに5万円 ④すべてのこどもへの10万円 ⑤生理用品の無料配布(通年継続事業に)
- ・ 環境の整備
 - ① 少人数学級 ②学童保育 ③保育所整備
- ・ こういった子どもにやさしい施策をすることによって「安心」が生まれた。明石市民で91.2%が「住みやすい」と答えていただいております。生活満足度の民間調査では関西1位。全国戻りたい町ランキングではついに全国トップに。
- ・ 9年連続人口増。中核市の中で全国1位の人口増加率。出生率も2018年度は1.70まで上昇。しっかり子どもに力を入れたら、出生率は上がるのは明らかであります。
- ・ 来る人も7割増加 明石は新規出店ラッシュで地域経済が活性化。
- ・ 税収増。明石市は税収が8年前に比べて32億円増加。
- ・ こども施策に力を入れればまちは発展する。

お金がない時ほど、子どもにお金を使うんです。そうすると、地域経済が回り始めて、お金が回り始めることをぜひ、お伝え申し上げたいです。
- ・ 明石市ではこども予算を倍増。126億円だった予算を今は258億円に倍増。だから明石市では、子育て支援ができる。金が要るんです。
- ・ 予算のシフト。財源をどうしてつくったか。やりくりでやったんです。
- ・ 今日、伝えたいこと。子どもを応援すれば、みんな幸せ。

■泉房穂の説得力と市民の共感

※以下のリンク先の動画での生の声をお聴きください。例) 19:37～20:52 は、視聴ポイントの時間帯

①明石市の予算シフト(政策の発想の転換)

『泉房穂 明石市長に訊け!! ① 子ども応援しない国に未来はない』

<https://www.youtube.com/watch?v=-Sj6d4FB0qQ>

19:37～20:52

②施策を決めて財源をやりくりするのが政治

<https://www.youtube.com/watch?v=-Sj6d4FB0qQ>

45:51～47:24

③コロナ対策：業界のための対策か市民のための対策か

『泉房穂 明石市長に訊け!! ② 地方から国を変える!』

<https://www.youtube.com/watch?v=heEQOPCq1Tc>

14:24～15:32

④コロナ対策：市民のニーズを把握する、市民から預かった税金に付加価値を付けて市民に戻す。

<https://www.youtube.com/watch?v=heEQOPCq1Tc>

16:05～19:04

⑤子育てのために移住(移住者の声)

『子育て支援に注力し 10 年連続人口増…移住先に選ばれる明石市で見た行政のヒント「子供の施策は未来政策」』

<https://www.youtube.com/watch?v=fERqH7GnnsU>

6:50～8:06

⑥明石に移住したい

【泉房穂】なぜ日本の子育て支援はピン트가ずれるのか? / KIDSNA STYLE

<https://www.youtube.com/watch?v=N6xupY2kUwM>

2:47～7:04

⑦明石市民の変化、明石市に住んでいるプライド

<https://www.youtube.com/watch?v=heEQOPCq1Tc>

28:38～30:23

⑧【子育てと学ぶ】「本当に異次元?岸田内閣の少子化対策」明石市の前市長がぶった切る!(カミコとマナブ)

<https://www.youtube.com/watch?v=cC6FEq5WyOE>

15:31～20:20

【4】横展開と縦展開

いずみチャンネル(2023/9/9)

『【公式】で、泉房穂はこれからどうする?! 考えている「3つのシナリオ」』

<https://www.youtube.com/watch?v=RIh1X1ulYAw&t=627s>

- 横展開：明石から広げる。明石で出来たことは他の町でも実現出来る。
- 縦展開：明石で出来たことは国でも出来る。

■横展開：明石から広げる。明石で出来たことは他の町でも実現出来る。

泉は2023年7月の兵庫県三田市市長選挙、10月の埼玉県所沢市市長選挙でいずれも非自民候補を応援し、当選に導いた。

① 2023年7月 兵庫県三田市市長選

当日有権者数：89,558人 最終投票率：42.60%（前回比：減少12.14pts）

候補者名	年齢	所属党派	新旧別	得票数	得票率	推薦・支持
田村克也	57	無所属	新	14,774票	39.38%	
森哲男	71	無所属	現	13,761票	36.68%	(推薦) 自由民主党・立憲民主党・公明党・国民民主党
長谷川美樹	72	無所属	新	6,541票	17.44%	
多宮健二	53	無所属	新	2,439票	6.50%	

いずみチャンネル(2023/8/30)

『【歴史的勝利】泉房穂が全力応援した「兵庫県三田市市長選挙」を振り返る!』

<https://www.youtube.com/watch?v=gKuMgRwnHol>

- ・ 市民を頼りに市民の方を向いて訴えれば市民は応えてくれる。特定の政党や特定の団体ではなく市民の方を向いて語りかければ市民は応援してくれる。市民は自分たちの生活のことを真剣に考えてくれる方を望んでおり、政党が推薦・公認したからというだけで票を入れる訳ではない。
- ・ しかし町でたくさんの方から声援があれば選挙に勝てる訳ではない。
明石市長選は69票差の僅差の勝利だった(明石市人口30万人)。100人いるとすると30人が組織の相手の応援、70人が泉の応援だった(30対70)。30人の組織票は、9割が投票に行く(27票)。70人の方の内投票に行くのは4割程度(28票)。町で70対30でも実際は27票対28票の僅差になるのが選挙。三田市市長選でも7割以上の支持がないと選挙は通らないと言ってきた。
- ・ 実際の選挙とは、そういうイメージ。そのあたりをみんなピンと来ていなくてそんな浮動票は当てにならないからと言って組織に依拠する政党の方に頭を下げに行く、団体の方に従うというような候補者が多い。まっすぐ市民の方を向いて選挙をすれば活路は開ける。

② 2023年10月 埼玉県所沢市市長選挙

当日有権者数：287,991人 最終投票率：38.80%（前回比：増加6.81pts）

候補者名	年齢	所属党派	新旧別	得票数	得票率	推薦・支持
小野塚勝俊	51	無所属	新	57,272票	51.69%	
藤本正人	61	無所属	現	41,477票	37.44%	(推薦) 自由民主党・公明党
杉田まどか	45	無所属	新	12,041票	10.87%	

東京新聞(2023/11/9)

『所沢市長選 30代の投票率が大幅増 前回比10ポイント 子育て世代の関心反映』

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/288951>

- ・ 「保育園・幼稚園児の保護者層に重なる30代の投票率が前回は約10ポイント上回り、他世代に比べて目立って増えていた。現状に不満を持つ子育て世代の関心が高まり投票行動につながったことが、数字の上でも裏付けられた形だ」
- ・ ベビーカーを押して演説を聴きに。「初当選した小野塚勝俊市長は、人口増を実現した兵庫県明石市の手厚い子育て支援策を、所沢市でも実施すると公約。選挙戦中は、夜もベビーカーを押して駅前などで演説に聴き入る若い男女の姿が目立ち、関心の高さをうかがわせていた」
- ・ 「全体の投票率も38.80%で、前回は6.81ポイント上回る大幅アップだったが、年代別では30代が突出。30～34歳では前回は9.55ポイント上回る29.13%で、特に女性は10.71ポイント増の32.0%だった。35～39歳も10.24ポイント増の33.98%で、男女とも前回は10ポイント以上、上回った」

■縦展開：明石で出来たことは国でも出来る。救民内閣、対決の構図。

※だんだん泉の縦展開についての言動とその記事が増え、構想が具体化してきている。

①Arc Times(2023/9/17)

『【泉房穂・前明石市長に聞く／日本の少子化対策、どうする？】国の子育て予算、私なら3倍に／冷たい社会を優しく、と誓った私の「復讐」』

<https://www.youtube.com/watch?v=wALvaMjvawI&t=2s>

51:01～56:25

- ・ 国民はいい加減にしてくれと、こんな政治じゃダメだと思っているから一瞬で国民は立ち上がる。
- ・ 小選挙区制だから一騎打ちに持ち込んだら1回の総選挙でひっくり返る。
- ・ ポイントは、政権交代するだけでは足りなくてその後、国民に安心を届けるところまで持ちこたえないといけない。

②AERA(2023/10/31)

『泉房穂氏「1回の選挙で首相を出せると本気で考えている」 6連勝で得た確信とその根拠は』

<https://dot.asahi.com/articles/-/204990?page=1>

- ・ 野党系無所属のほうが絶対勝てる。「私が6連勝して感じるのは、野党系無所属のほうが幅広く支援を訴えられて無党派にも浸透しやすい。所沢市長選では、投票率が前回より約7ポイント上がっただけで、無党派層の票をごっそりと取ることができて勝ちました。ここにヒントがあります」
- ・ 「今の岸田政権の支持が低迷している理由は国民への愛がないことなんです。それなら一つにまともって、国民への愛がある市民派の候補者を無所属で出して、自民党と一騎打ちの構図をつくる。投票率が上がれば、1回の総選挙で多数派となって首相を出せると、私は本気で考えています」

③東京新聞(2023/11/26)

『「全ての既存政党を壊す」泉房穂氏が語った政権奪取の青写真 「日本の不幸」「国民の敵」が意味するものは』

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/292214/1>

- ・ 泉氏は、物価高などの影響で「国民の生活は持ちこたえられなくなっている」と岸田政権を批判。地方選での自身の勢いを次期衆院選につなげ、国民負担増から国民を救う政治へと転換する「救民内閣」の発足に向け、政権奪取構想を練り始めている。
- ・ 「救民内閣創設だ。これ以上の国民負担増はせず、子ども予算と教育予算を倍増させる。食料品の消費税率はゼロにする」
- ・ 次期衆院選にはどんなイメージで臨むのか？『『国民の味方』対『国民の敵』の戦い方に持ち込む』
「私は救民内閣創設を訴え、政治の流れを一瞬で変える。1回の衆院選で政権は取れる」
- ・ その流れをどう作る？「既存政党とは別の新党を立ち上げるというよりも、全ての既存政党を壊すイメージ。衆院選は小選挙区制だから、今はいずれの政党の議員であったとしても、『国民の味方』が勝てると思えば、こっちに流れてくる。国民の負担増を許さない勢力を一つにまとめるのか、連合軍で戦って勝つのかは、いずれでも良い」

④東京新聞(2023/12/7)

『泉房穂氏「岸田政権は国民の首を絞め続けている」 次期衆院選「国民の味方チーム」で救民内閣発足を主張』

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/294696>

- ・ 国会内で開かれた立憲民主党議員らの会合(直諫[ちょっかん]の会主催)で講演した。岸田政権について「国民の首を絞め続けている」と批判し、次期衆院選で「救民内閣」の発足を主張。「どっちが国民のために本気か、どっちが勝ったら自分の生活が助かるかという構図ができれば一瞬で勝てる」と訴えた。
- ・ 塩村あやか Youtube 『勉強会に泉房穂さん』

<https://www.youtube.com/watch?v=0d44hZMhUMI>

6:38~8:57

⑤日本の未来を創る勉強会(2023/12/8)

『救民内閣構想について泉房穂前明石市長』

<https://www.youtube.com/watch?v=4YhRo2LTXsU>

- ・ 今の状況なんて、サッカーでいうたらもうゴールの手間にボールが蹴られてきてちょこんと蹴ったら入る状況ですよ。
- ・ 生活がどんどんきつくなっている。本当に悲鳴が聞こえるような状況。だからこそ政治が必要であって、今こそ政治の出番。どっち向いて政治してんのか、もうひとつは本気かどうかの2つです。

⑥朝日新聞(2023/12/11)

『各地で選挙応援、真意はどこに？ 泉房穂・前明石市長インタビュー』

<https://www.asahi.com/articles/ASRDC4DY8RDCPIHB00T.html>

- ・ 今後は新党なのか、既存の政党の連携なのか？ 「重要なのはすべての小選挙区で候補者を一齐に立てて勝つこと。そのために政党の連立でも、一つの組織になることでも何でもよい。「救民内閣」の一点で全体を包み込むチームづくりが大事だ」
- ・ 候補者調整など難題は多いのでは？ 「小選挙区で重なるところは予備選をすればよい。問題は、圧倒的な世論の共感、応援の状況をつくれるかどうかだ。選挙の構図を国民に近いか遠いか、国民を助けるか負担増を続けるかというふうに争点化できれば一気に流れはできる」

⑦時事通信(2023/1/5)

『国民負担減の「救民内閣」を 次期衆院選、政権交代目指す一泉・前明石市長インタビュー』
<https://www.jiji.com/jc/article?k=2024010300275&g=pol>

- ・ 所得に占める税金と社会保険料の割合を示す「国民負担率」にも触れ、「5割なのに生活が苦しいなんて、政治が間違っている以外に理由はない」と断じた。
- ・ 次期衆院選について(1)消費税の軽減税率を5年間の期間限定で0%に引き下げる(2)医療、教育費を無償にする一ことを柱とする「救民内閣」構想を掲げ、与野党双方から賛同者を募る方針を表明。泉氏ら「国民の味方」と、自民党など「国民負担増を続ける古い方々」の一騎打ちの構図を作り出すと主張した。

⑧AERA(2023/1/10)

『「国民を救うまでのシナリオ」7つのステップ』

<https://news.yahoo.co.jp/articles/7e8284b071f7bc5c8f1f8362d558a47291a8f8c9>

■救民内閣構想・7つのステップ

- 1) 世論喚起：社会は変えられるという空気を醸成。
- 2) 大同団結：国民に負担を強いる政治から国民を救う政治に転換することの一点で連携。
「自民の一部、場合によっては公明も、そして野党の立憲、維新、国民民主、れいわ、共産、社民、みんな、参政に加え、百田新党や、前原新党も連携したらいい。かつて、小池百合子都知事の「希望の党」ブームは、「排除します」のひと言でしぼんでしまった。大同団結を実現するためには、「排除の論理」があってはならない」(※維新、更に参政、百田とまで連携すべきか?)
- 3) 候補者調整：各党の合意に基づく小選挙区での予備選の実施と、比例区との重複立候補の禁止。比例区については、統一名簿を作るのではなく政党ごとに候補者の扱いをまかせればよい。
- 4) 政権交代：多党連立政権の樹立。
- 5) 方針転換：政策を実現するために方針転換。財務省と戦う。人事権を行使。
「財源の問題もあるが、シンプルにいったん、思い切って国債を発行すればいい。「お金がないからできない」やなくて、お金がなかったら、まずは国債を発行して国民の生活を助ける。10年程度で帳尻が合うようにすることだって可能だ」(※この考えは財政規律の点で気になるころ)
- 6) 国会での可決：「政権交代を支持した議員が全員法案に賛成するかといえば、それは甘い。実際に予算をシフトしようとする抵抗してくる。そこで状況を打開するには、解散を断行すればいい。そして、掲げる法案に賛成する候補者だけを公認する。かつて小泉元総理が、郵政民営化に反対する議員を「抵抗勢力」と呼び、その対立候補として刺客を立てた手法を踏襲するわけや」

7) 令和の大改革：47 都道府県を廃止し、全国約 1700 の市区町村を 300 くらいの圏域に再編。「首相公選制」の導入。

「私のこの構想に対して、いくつもの政党から連絡が入り、マスコミの幹部からも取材が相次いでいる」

⑨いずみチャンネル【泉房穂 公式チャンネル】(2023/1/10)

『「令和の大改革」宣言！〈救民内閣に向けた 7 つのステップ初公開〉』

<https://www.youtube.com/watch?v=tUtCcaidXxA>

- 大同団結：救民内閣、国民負担増の政治から国民を救う政治に変わる一点で一致。6:52～7:35
- 候補者調整：小選挙区候補と各政党の比例候補に分ける。重複立候補認めない。
小選挙区候補がダブった場合は予備選を行って統一候補とする。7:35～9:59

⑩いずみチャンネル【泉房穂 公式チャンネル】(2023/1/13)

『【続編】「令和の大改革」〈救民内閣に向けた 7 つのステップ〉』

<https://www.youtube.com/watch?v=6lZolV9uSzo>

- 国会での可決：方針転換の反対勢力に対して、閣僚、官僚は人事権で差し替え。国会は解散総選挙で多数を取る。2:57～5:59

【5】「救民内閣」の展望（※河口の感想）

- 『小選挙区で「自民」対「野党系無所属」の一騎打ちの構図を作り出し、無党派層の支持を拡大して一度の総選挙で政権奪取』という泉の構想には、政権交代の希望と可能性がある。
- 政権奪取した連立内閣での課題「予算編成(優先度)はどうか？」について
 - ・ どの予算を優先するか・・・少子化対策、教育無償化(選挙公約、予算 3 倍、やると決める)
 - ・ 財源は国債に頼らず(財政規律)、他の予算を削減する(やりくり)・・・防衛費、公共事業、エネルギー(原発関連)、基金(半導体基金)、等々の削減。
 - ・ 連立政権・与党間の政策の違いから優先度(やりくり)で対立が起きる。しかし予算の優先度の議論と決め方を国民にオープンにすればよい。国民に開かれた政治。
 - ・ 左派政党は、なぜ防衛費、公共事業、基金等を削減すべきなのかの理論武装をして優先度(やりくり)の議論をリードすることが重要。